

手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議（平成28年度第4回）

結果概要

日時：平成29年2月20日（月）午前10時～11時30分

場所：鳥取県庁 特別会議室（議会棟3階）

出席者：別紙のとおり

○報告事項

- ◇ 第4回全国高校生手話パフォーマンス甲子園基本計画（以下「基本計画」という。）について（資料1）

平成28年度手話パフォーマンス甲子園実行委員会（書面会議）にて承認された基本計画の概要を事務局から説明した。

第4回全国高校生手話パフォーマンス甲子園（以下「大会」という。）の開催は決定したものの、関係機関との調整中のため日程が未定であること、関係機関との調整が整い次第、日程を委員へ報告することを補足で説明した。

【各委員の意見】

- ・ 大会日程はいつごろ決まるのか？調整は難航しているのか？ [戸羽委員、田中委員]
⇒ 具体的な日程は分からないが、なるべく早く決定できるよう働きかけているところ。
- ・ 日程が決まらないと、審査員やゲストパフォーマー等への出演を打診しにくい。3つの候補日を示すにしても、いつまでも待たせるのは先方にご迷惑を掛けてしまう。早急に決めていただきたい。 [大杉委員]
⇒ 了解。早急に日程を決めることができるよう調整を進めていきたい。

- ◇ 手話パフォーマンス甲子園実行委員会設置運営要綱の改正について（資料2）

手話パフォーマンス甲子園実行委員会に企画推進会議を代表して、鳥取県福祉保健部長（企画推進会議委員長）が委員に加わること等の改正内容を事務局から説明した。

【各委員の意見】

- ・ 特になし。

○議題

- ◇ 議案第1号：第4回大会開催要項（以下「開催要項」という。）について（資料3）
開催要項について、改正点を中心に概要を事務局から説明した。

【各委員の意見】

- ・ 確認の意味も含めて、予選審査動画及び本大会の演技に音声をつけることは義務化されているのか？また、音声の有無が審査対象になってはいないか？特に聞こえる人が、音が必要だと勘違いしてしまうのでは？工夫が必要だと思う。 [廣田委員]
⇒ 音声を義務化しているわけではない。音声の有無は審査の対象にはなっていない。音声の有無については、今後、取扱いを整理していきたい。

- ◇ 内容を一部修正（音声についての取扱いを記載）することで、原案は承認された。

- ◇ 議案第2号：大会予選審査及び本大会出場チーム選考実施要領について（資料4）
大会予選審査及び本大会出場チーム選考実施要領について、改正点を中心に概要を説明。



【各委員の意見】

- ・ 得点順枠の選出チームに鳥取県のチームが多く含まれている場合はどうなるか？ [大杉委員]
 - ・ 仮に、鳥取県のチームのレベルが高く、多くのチームが得点順枠の上位を占めることは、大変喜ばしいことでもある。実現できるかは分からないが、本大会出場を目指す鳥取県の高校生のためにも、是非、今回の内容で進めていただきたい。 [依藤委員]
 - ⇒ 得点順枠において、鳥取県チームの本大会出場数の制限をかけるようなことは行わないこととする。
 - ・ 本大会出場の辞退を認めないという趣旨は理解できるが、やむを得ない事情により辞退チームが発生した場合、19チームでの開催となるか？それとも、タイミングによって調整が難しいところもあるが、予選落ちチームから繰上げで出場してもらうこととなるのか？ [大杉委員]
 - ・ やむを得ない事情で本大会に出場できない場合もあると思う。運営上支障がないギリギリのタイミングまでは、予選落ちのチームから繰上げで本大会出場を認めてあげればいい。 [杉本委員]
 - ・ 地方ブロック枠での出場チームが辞退した場合、同じ地方ブロック内から繰上げされるのか？それとも、予選審査会全体の得点の高いチームから繰上げされるのか？ [廣田委員]
 - ・ 同じ地方ブロック内から繰上げされるのがいいと思う。ただし、同じ地方ブロック内で対象チームがない場合は、得点の高いチームから繰上げされるようにすればどうか？ [戸羽委員]
 - ⇒ 議論の結果、万が一、辞退チームが発生した場合は、準備が間に合うようであれば（欠員にはせずに）予選落ちチームから繰上げで本大会の出場を認めることとする。なお、地方ブロック枠の選出チームが辞退した場合は、同じ地方ブロックの中から繰上げチームを選出することとし、対象チームがない場合（同じ地域ブロック内で他に予選参加（落ち）チームがない場合や、全てのチーム本大会への出場を辞退した場合等）、予選落ちチームの中で上位のチームから繰上げチームを選出することとする。また、得点順枠での出場チームが辞退した場合は、予選落ちチームの中で上位のチームから繰上げチームを選出することとする。
 - ・ 7（1）で、「失格又は辞退したチームには結果を通知しない」とあるが、失格したチームには通知しないのか？自分たちが失格したことをどうやって知るか？ [田中委員]
 - ⇒ 失格したチームには、その旨を通知することとしたい。
- ◇ 内容を一部修正（失格チームへの通知）することで、原案は承認された。



◇ 議案第3号：全日本ろうあ連盟賞及び日本財団賞の取扱いについて（資料5）

できるかぎり多くのチームを表彰するという観点から、全日本ろうあ連盟賞及び日本財団賞の取扱い（表彰基準）について、事務局（案）を提示しつつ、議論をしていただいた。

【各委員の意見】

- ・ 事務局（案）でいいと思うが、（特に対象チームが少ないであろう全日本ろうあ連盟賞の）受賞チームの候補がない場合はどうするのか？ [杉本委員]
 - ⇒ 各団体に取扱いを相談したい。
- ・ 取扱いについては、連盟内部でも検討し、多くのチームを表彰したいという点で賛成している。ただ、これまで機械的に表彰チームが決まっていたのと異なり、受賞選考チームが増えることで、選考時間が長くなるのではと危惧している。 [廣田委員]
 - ⇒ 大会の開催時間を長くすることで少し余裕を持たせていることと、演技時間が場合によって短くなることで、進行に余裕が出てくる可能性があり、選考時間の延長を吸収できるのではないかと考えている。

- ・ 今回の改正で同点の場合の順位付けをルール化したが、これは同点の場合の全てのケースで順位付けを行うのか？ そうであれば、選考時間がさらに長くなってしまふことが危惧される。[大杉委員]
 - ⇒ 表彰や本大会出場チームの決定など、順位付けを必ず行わないといけない場面に限って、実施することとしたいと考えている。
 - ・ これまで、審査員に鳥取県聴覚障害者協会（以下「協会」という。）の関係者がいたのか？協会賞はどうやって決めるのか？得点の順位で決めるのか？[田中委員]
 - ⇒ これまで、協会の関係者が審査員を務めたことはない。協会賞の受賞チームは、協会（理事長）が決定することとなる。
 - ・ 奮励努力賞は、いわば参加賞と同一の意味だと思うが、是非、賞状を授与するだけではなく、記念として学校に残り、生徒の中で受け継がれていけるようなものであってほしい。手話パフォーマンス甲子園が広がっていくきっかけにもなると思う。[廣田委員]
 - ⇒ 了解。記念として残るようなものをお渡しできるよう今後検討する。
 - ・ 合同チームの場合、表彰状は1枚のみか？是非、全ての高校に表彰状を渡してほしい。[三王寺委員]
 - ⇒ 了解。全ての高校に表彰状を授与したい。
(なお、これまででも合同チームの場合、全ての高校に表彰状をお渡ししていた。)
 - ・ 協会賞の名称は長すぎる。是非、鳥取県らしい名称となるよう検討してほしい。[大杉委員]
 - ・ 奮励努力賞は、固い印象を与えると思う。通常、奨励賞といった名称が一般的に使われている。[三王寺委員]
 - ⇒ それぞれ名称を見直すこととし、協会賞の名称は協会が、奮励努力賞の名称は事務局にて再検討を行うこととする。
- ◇ 事務局(案)を企画推進会議の意見とし、両団体に提案することで原案は承認された。
(賞の名称を別途検討する。⇒ 開催要項に反映させる。)

○その他

◇ 今後の日程について（資料6）

大会に向けた今後の日程について、事務局から説明した。

【各委員の意見】

- ・ 特になし

◇ 予算の執行状況について（資料7）

手話パフォーマンス甲子園実行委員会で承認された平成28年度手話パフォーマンス甲子園実行委員会の補正予算について、事務局から説明した。

【各委員の意見】

- 特になし。

◇ その他

企画推進会議委員の任期が3月31日までとなっていることから、4月1日以降の委員の就任について依頼した。



手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議 出席者名簿
(平成28年度第4回)

| 役職 | 所属・役職名 | 氏名(敬称略) | 出欠 (代理:敬称略) |
|-----|---------------------------------------|---------|----------------|
| 委員長 | 鳥取県福祉保健部長 | 藪田 千登世 | 出 |
| 委員 | 公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会 事務局次長兼福祉・労働委員会委員長 | 戸羽 伸一 | 出 |
| | 鳥取県手話通訳士協会 | 森原 早百合 | 出 |
| | 全国手話通訳問題研究会鳥取支部 | 国広 生久代 | 出 |
| | 鳥取県手話サークル連絡協議会 | 田中 優子 | 出 |
| | 社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会 専務理事 | 杉本 新二 | 出 |
| | 鳥取県教育委員会事務局 教育次長 (代理:参事監兼高等学校課長) | 寺谷 英則 | (足羽 英樹) |
| | 鳥取県高等学校長協会 会長 | 依藤 典篤 | 出 |
| | 鳥取県私立中学高等学校長会 会長 | 山内 晃 | 欠 |
| | 鳥取県立鳥取聾学校 校長 | 三王寺 孝子 | 出 |
| | 一般財団法人全日本ろうあ連盟 青年部長 | 廣田 喜春 | 出 |
| | 国立大学法人筑波技術大学 教授 | 大杉 豊 | 出 |
| 事務局 | 障がい福祉課長 | 小林 真司 | |
| | 障がい福祉課社会参加推進室 室長 | 明場 達朗 | |
| | 障がい福祉課社会参加推進室 課長補佐 | 岡村 弘美 | |
| | 障がい福祉課社会参加推進室 係長 | 安永 孝文 | |